



黒字化までの努力と好業績結果に踏まえ、真の笑顔と

活気あふれる生活を実現し、**明日への活力となる夏季手当補給**を求める申し入れ

3月18日 申し入れを行う!

3月15日に「2024年度賃金のベースアップ」ならびに「夏季手当」について妥結しました。しかし、その内容については、一定の評価はできるものの職場では不満の声が絶えず上がり続けています。

私たちは、安全とその先にある安心の輸送サービスを提供し、お客さまに近い場所における価値創造や収益確保に果敢に挑戦し、“黒字基調の健全経営”の実現を図るために職場で奮闘してきました。コロナ禍以降、これまでの厳しい経営状況を社員一丸となって払拭して好決算をつくりだしてきた自信があります。

これまでの苦労と我慢、明日への活力となる手当支給こそが、社員・家族の幸福の実現に繋がることから、本部は以下の通り申し入れを行いました。

■ 申し入れ項目

1. 真の笑顔と活気あふれる生活を実現するために、4月公表予定の2024年3月期期末決算での好業績に踏まえ、2024年3月15日妥結の2024年度夏季手当 2.7ヶ月分に加えて、好業績反映分として全社員一律に2024年度夏季手当を補給すること。なお、その場合の支給額については、当期純利益から株主配当を差し引いた額に15%を乗じた額を全社員一律に均等に配分した額とすること。
2. この要求に対する回答については、団体交渉による協議の進捗を踏まえ決定すること。

**つくりあげてきた成果の果実をステークホルダーの一員である
組合員・社員に対して公平・公正に配分すべきだ!**

申36号

黒字化までの努力と好業績結果に踏まえ、真の笑顔と活気あふれる生活を

実現し、明日への活力となる夏季手当補給を求める申し入れ

団体交渉を行う！

2023年度の決算を鑑みれば

夏季手当の補給は当然だ！

現場の思いに報いない
会社姿勢が明らかに

そもそも

- 1月の上方修正で株主配当を70円へ、また2023年度決算の状況から更に85円に上げた。なぜ、社員への還元を行わないのか。
- 2.7ヵ月分は、賃金と夏季手当を同時検討した第三四半期決算の業績反映であり、一方で、売上人件費率は「過去最低」私たちの生産性が上がっている。社員に対する還元が低いという証左だ。

好業績を生み出した原動力は職場の努力の賜物であり、労働の価値は高まっている。

「なぜ、夏季手当補給に至らないのか」強く主張！

株主配当、内部留保、役員報酬を上げて、ステークホルダーである社員には出し渋り置き去りにしている！
公正公平な分配ではないことを指摘！好決算でも社員への還元をしない会社姿勢が明確になった！

申36号交渉で
明らかになった

会社の認識・考え方

- 考えを否定するつもりはないし、受け止める。株主増配をしたから夏季手当補給をするという考えはない。社員への還元はしっかりやっているつもりだ。
- 好決算を出したことは紛れもなく社員の努力である。3月8日に示した夏季手当2.7ヵ月分は、好決算を生み出したうえでも妥当な数字だと考えている。
- 物価上昇により社員生活に影響がでていることは認識しているが会社としても影響を受けている。年度末決算の状況からみても処遇改善の実施を行いながら、社会状況も念頭におきながら考慮して判断した。
- 生活設計が立てられるために賃金と夏季手当を同時議論してきた。総額人件費の低下は理解している。重要視しているのは、賃金がいくら手元にくるかであり、平均基準内賃金が下がる状況は良くない。平均1万円を超えるベアを上げたことは会社として踏み込んだ判断をした。
- 社員を大切にすることは認識一致している。人件費を低く抑えたいという考えはない。働きがいの向上を図りながら、直近の業績、中長期的な見通しの判断をしてこの水準になった。

好業績は私たちの生産性が高められたからであり、現場の苦勞がすべての社員に還元されなければならない！

業績反映・業績連動という手当一時金の性質からみれば還元を行わない理由は見当たらない！
過去最高益に匹敵する好業績を見越して夏季手当の低額回答をした会社の欺瞞は断じて認められない！

社員・家族の幸福の実現を具現化するために輸送サービス労組は要求を継続し続けていきます！